

私たちが病院ではなく地域で暮らしたい 9・26 集会 in 長野

9月26日（土）長野市生涯学習センター（トイゴ）4階大学習室で、精神障がい者も病院ではなく地域で暮らしたい記信州ネットワークの集会が開催されました。

97名のご参加があり、会場は一杯でした。

第一部はDVD「やれば、できるさ」の上映では、一昨年秋から起こった病棟転換型問題に対する当事者の反対運動の様子を映しています。当事者を中心とした反対運動が全国に広がり、昨年6月26日には、日比谷の野外音楽堂に3,200名が集まりました。反対のシュプレヒコールをあげたのです。

続いてNPO法人日本障害者協会（JD）代表、きょうされん専務理事の藤井さん一行やイタリアのトリエステを訪問した模様を観ました。資源や資金が潤沢にある訳ではないけれど、精神科病棟を無くしてからも、地域の人たちのサポートがあるので、当事者も自由に楽しく暮らしています。支援する人たちの明るさや笑顔も印象的でした。

次に、リレートークがあり、7名の方の発表にとっても心を揺すぶられました。

今、法律を大学院で学び、精神障がい者の問題を国際法の観点からもみていく必要があると言われた大石智之さん。退院してからの地域の支えで、働いたり、ポップラの会を立ち上げて今、その活動を頑張っている山本悦夫さん。40年以上の入院経験を経て、今はグループホームで心穏やかに過ごしているので、「やはり地域で暮らせるのがいい」と講演会での体験発表をしている関田和子さん。息子さんが発達障がい、それを理解されないことでご本人もご家族も辛い思いをされてきたので、障がいを理解して欲しい、地域の資源が大切という高橋明さん。地域で精神保健福祉ボランティアをされている竹内恒子さんは、施設やグループホームで長年当事者の気持ちに寄り添ってこられたことを話され、母親が亡くなってから何年もおはぎを食べていないと言われたメンバーさんの言葉に涙され、毎年、皆におはぎを作って届けますが、そのくらいしか出来ないと言われていたお気持ちにほろりとなりました。支援者として、最初は精神保健福祉ボランティア講座を受けられ、今は法人で当事者支援を行っている太田廣美さんは、「最初に重度の身体障がいをもつ教え子との交流の気持ちがベースにあること」と、「地域で暮らせることを応援したい」と言われました。点字翻訳家の戸崎さんは、普段点訳のお仕事の他に、高校生にノーマライゼーションの授業をされています。編集に関わる雑誌たあくらたあの取材で福島へ行かれ、当事者、周辺の人と、そうでない人との「温度差」について常に考えていると言われました。

短いことばに、皆さんの「地域で暮らせることが私たちにとって幸せなこと、そのために日々頑張っている」というメッセージを受け取りました。

この問題だけではなく、様々な困難は、当事者が一番体験上分かっています。

けれども、体験していない人や、知らない人にある「温度差」をどうしたら良いのか。

どうしたら理解してもらい、一緒に考えてもらえるかということを考えながら運動していくことが必要なのではないかと思います。

長谷川利夫先生のご講演

杏林大学保健学部作業療法学科教授

病棟転換型居住系施設について考える会呼びかけ人代表

「病棟転換型居住系施設」問題は「人権問題」です。

病院内の施設の問題は、「どこで死ぬか」ということでは無く、「どこで生きるか」ということで、その視点を見失ってははいけません。

運動により、長野県でもこの施設建設の試行事業に関する条例を見送ったので、こうした声を上げ続けることが大切。

「自分が社会がどこにどんな人間として生まれ変わっても耐えられるかどうか」がその社会が公正かどうかといういことの判断です。この施設を容認する人が、そこに住めるのでしょうか。

私たちが運動を続けるには共感が必要であるし、共感をベースに人は集まります。

共有できる正義を広めることです。

私たちは今、地域で暮らしていますが、まだまだ多くの人たちが精神科病院に必用の無い入院を続けているのです。

昨年の長野での署名活動と、県への陳情・請願は結果を遺すことができ、抑止力になったかもしれません。しかし長谷川先生の表現をお借りすれば、その動きも「応急措置」であり、その先の保障は無いので「続けて運動していく必要がある」と言われました。

一般病棟とは違い、精神科病棟に入院している人にみに適応される精神科特例についても、精神障がい者の人権問題そのものであるとご指摘頂きました。身体拘束についても、受ける人の精神的身体的苦痛に対してもっと配慮する必要があります。

精神科病棟に入院する時も、一般病棟に入院する時と同じようにその人の人権に配慮が必要です。精神障がい者だけが他科にある配慮が欠けるのは、「差別」です。

そうした認識を共有することが運動に大切です。

* アンケートより *

「自由こそ薬です」「横へのつながりをつくっていきたい」「講演会を聴いてもっと色々なことを勉強したいと思いました」「権利条約との関係はどうなのか。もっと声をあげていきたい」「皆さんが元気ではつらつとしている姿に感激しました」「地域で暮らす資源、施設、人材をどう充実させるかを考えていかないと」「一人一人が出来ることは少なくとも共有していくことで大きなムーブメントになっていくということを感じた」

「病院の中のグループホームが何故いけないのか分からない」

「これからが本当の闘いなので、出来る限りバックアップしていきたい」

「講演会では問題点が整理できてよかった、リレートークはとても良い構成でした」

最後に皆で一緒に読んだアピール文を掲載します。

2015年9月26日

当日の様子



冒頭での代表挨拶（山本さん）



リレートークの大石智之さん



リレートークの発表
ボランティアの竹内恒子さん



リレートークの発表の太田廣美さん



リレートーク点字翻訳家の
戸崎公恵さん



長谷川先生には当事者の視点に立つご講演を頂きました。



皆さんの笑顔が物語っています。